

ご報告!

2013(平成 25)年度 NPO 法人レインボーハウス 通常総会

特定非営利活動法人レインボーハウスの第 17 回・通常総会が、2013（平成 25）年 6 月 22 日（土）13:00 より、和歌山市弘西にありますレインボーハウス施設で行われました。

会員 66 名の内、当日参加していただいた方は 8 名で、35 名の会員の方から委任状をいただいていたので、総会が成立させることができました。総会の議長については、当法人理事長が担当しました。

2012 年度・事業報告では、「子どもゆめ基金」よりいただいた助成金で、たくさんの体験行事を開催できたことに加えて、高野山や貴志川線など和歌山県に存在する地域の魅力を体験する行事も開催できたことや、「文部科学省」よりいただいた事業委託で親同士の交流会や学習交流会を開催できたこと、「子ども未来財団」よりいただいた事業委託で大規模講演会を和歌山市と堺市で開催できたことを報告しました。

その後、昨年度 1 年間にレインボーハウスへ来られた方の表、2012 年度収支精算書、監査報告、2013 年度・事業計画を報告する中で、昨年度の問題点・良かった点や今年度の課題・展望を報告させていただきました。

① 少しずつ立ち寄りやすい場へ

子ども・青年本人や保護者・家族の方以外にも、大阪で短大の講師をされている方やその学生さん、不登校・ひきこもりの子ども・青年も対象にしている高校や塾の方、地域で子育て支援をされている団体のスタッフ等、地域で支援や活動をされている方も来所され、交流することができました。いろいろな方が気軽に立ち寄ることができ、少しでも不安を安心してできたり、つながりを広げられたりできるような、そんな場に少しでも近付けられたらと考えています。

② 厳しい運営状況

昨年度に来てくれた子ども・青年の人数は、新施設の効果もあつてか、ここ数年の減少傾向に歯止めがかかり、わずかに増加という状況でした。ただ、初めて見学に来てくれた子ども・青年の大半は、来てくれるのが 1 回限りで、新たに継続して通所してくれる子ども・青年がなかなか増えませんでした。「いつでも行っていいし、行かなくてもいい」という子ども・青年が自分のペースで行くかどうかを決められるような、少しでも行くハードルが低い「居場所」を目指すことは続けながら、運営継続も両立させていくのは、大変困難な状況です。昨年度の収支は、一昨年度よりわずかに改善しましたが、助成金や事業委託金、多くの方よりいただいたご寄付によって、どうにかやり繰りできている状況であることには変わりありません。引き続き経費の節減に努めると共に、会員を増やすことや少しずつでも収入を増やす取り組みを更に開拓していきたいと考えています。

③ 新たな取り組み

今年度から、月に 1 回、レインボーハウスが定休日の水曜日に小・中学生対象の「レインボーハウス増刊号」という取り組みを始めました。その「レインボーハウス増刊号」が、今年度に文部科学省より当法人への委託が決まった研究委託事業の中で取り組めることになり、無料で来てもらえる日になりました。「親に金銭的な負担もかけている」と気にする子どももいるので、小・中学生限定ですが、「無料で来られる」ということも積極的に広報して、レインボーハウスに来てくれるハードルを少しでも低く感じてもらえればと考えています。